

昨今、スポーツ界のトラブルが絶えない。

バンクーバー冬季五輪の服装問題や日本相撲協会の一連の不祥事、埼玉西武ライオンズのコーチによる選手への暴力行為、ワールドカップ招致に意欲を見せていた日本サッカー協会会長の突然の退任劇などに対する注目度は非常に高い。これら日本を代表するスポーツのトラブルは決してスポーツ界のプラスにはならない。スポーツ界は今後、トラブルを未然に防ぐマネジメント力が必要である。

ある地域のスポーツ大会で競技規則に反して試合が行われてしまったことがあ

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



った。そのクラブが不戦敗となったことは当然のことではあるが、その後の大会実行委員会の処分が一転、二転、揚げ句の果てには、大会での処分に加えて、翌年の加盟登録の剝奪(はくだつ)やら勝ち点マイナス

にグラウンド管理者から厳重注意された。大会実行委員会は直ちに、その代表者のクラブが試合に勝ったにもかかわらず負け扱いにして、代表者に対してクラブの代表者を降ろること、と一方的に通告した。

明性に欠けたお金のトラブルも多々起きている。こんな具合に地域スポーツにおいてもトラブルが絶えない。プロスポーツや統括団体のように法人格を得て専属のスタッフを擁し、しっかりとしたルールを取

感情論が深く入り込んでいられることも少なくはない。地域という身近なコミュニティだからこそ起こりえる問題なのであり、だからこそスポーツ界にもマネジメント力が必要なのである。そして、マネジメント

マネジメント力

15からのスタート等々、その根拠がどこにも見当たらないまま処分が下されそうになったことがあった。

後に県協会から、大会実行委員会の処分が厳しすぎるとの見解が出たこともあった。さらにその県協会へ

り決めていれば、このようなトラブルは未然に防げるものだろうが、多くはボランティアで運営されている地域スポーツの現状においてはグラウンド以外でのトラブルが絶えない。

そこには任意団体特有の

また、他のケースではクラブの代表者が、大会が借りていたグラウンドの使用

協会に直訴したことも。透

そこには任意団体特有の

事業組合代表) 隔週土曜日掲載